

ロースバーク
日本人
收容所
知事局
四月廿日
火曜発行
オニ。三号

坤軸震駭の大奮闘

あとも十日が関ヶ原

華府電 スクリップ、ハワード社華府通
信部が採り得た政府内部の歐亞西
戰場の豫想は、今後六十日間が最も
危険であり、地軸を揺り世界を震
駭する大決戦を見んとする状況が刻々
に迫りつゝあるを樂觀を許さぬ。
中立国筋の豫想は此う天下分目つ大闘
争は日独伊拒軸側が首季大攻勢
の火蓋を切り、死か勝利かの関ヶ原
で毒がスとも合心總ゆる新武器、人
智の極を盡した化學子の精粹が出現
すると期待されると言つて居る為めに
噂は、何れ度ヒトラは、前大戦に独
軍がパリ攻略を目指し、恐威的新武
器を用いた如く、フランス、ベルギー、海
岸より、英京倫敦に向つて、殲滅的大
攻勢に出るのでは無いかと盛に宣傳さ
れて居る。折柄一方日本は過去一二年
太平洋に於て小戦闘を終始して居た
が、俄然大攻勢の作戦をとり、南太平

洋は殊に危機に瀕するに到つた。又支那
に於ける我が空軍基地に対し日本は
重慶を脅威に増大して来たし、北太平
洋に於ける我々の艦隊は依然として日本軍の
手中に在り、布哇龍の戦手に次いで米
大陸へ向つて大攻勢が豫想されるに
至つたと去へられりと。

オイル、ヒートは今後永久に
不可能とならん

米國化學子協会は前週六週間に亘り
ワシントンに於て、戦時會議を開催し
たが右の側會に當り、同協會顧問大
工組長市のベンジヤミンブルック博士は
オイル、ヒートは恐らく今後永久に抽
取されずであらうと發表し、左の如く報

今又、エルパソ時間九時より大統領
領の放送がある。目的は鮮明
では無いが、ヒトラが五十四回証
生と、その宣言に論及するかも知知
れない。二月十二日以來の事である。

オイルは必要不可欠な燃料の爲め保存
すべきである。一九二五年以來オイルがヒ
トゲンに使用されて居たのは、オイルの生
産量が少く、従つて高價であつた故
の暫くである。値段が高價となり
現在のレーシオニクが履行される場合
普通の燃料とすることが不可能とな
り、海軍或は商船以外には使用され
ないであらう。而して米國に於て現在
重油は不足して居る。

と報告したブルック博士は其理由として左
の三点を挙げて居る

- 一、新油田の発見が著しく減少した。
- 二、戦時下の輸入不可能と成りし。
- 三、或油田に於ける生産過剰は新油田
発見の減少により將來の全生産
額に影響を及ぼす。

樂屋のそと(舎内風景)

日の本劇團復興委員、午本櫻道
行をやるといふ。三味線であつた引
込みの「狐六法」をやつて退けるとは
凡そ奇蹟であらう。又、俳優諸君
比皆雅びやかな若人ばかりといへ、踊り
の下地あつた所作事か。

復活の初夏演藝會

いよく明後夜七時か
樂屋覗きの序に配役を披露する
午本櫻道省の忠臣花三段目
喧嘩場左の如し。

- (勘平) 中村福三郎 (伴水) 柳春風
- (師直) 川上 清 (若狭五郎) 三升紅洋
- (本藏) 嵐 實太郎 (判官) 澤村宗三郎
- (おかる) 中村時壽 (供奴) 南一寸

◎日の本劇團力演の目割は
二十三日(木) 二十三日(金) 二十四(土)日
の三日間を今午の処用若希は七時と決す。
吉例、演藝會はグラムは今日中に
メ切り進つて後、地、承路に及ばん。

朝から上気せめて兵六、昨夜八時
としく櫻生(坐り込んだもの)だ。
○花柳澄子、静御前、流石一坐の
女形とあつて、腰から爪先まで、すつかり
出来上つた流線型。又同じ、狐忠信
は陰性だけの勘平とて、中村福三
郎よりも忠信がハマリ役かも知れぬ。
鼓の藤太は三升紅洋、供奴は澤村
宗三郎、嵐 實太郎、南一寸の
面々、吉野櫻を振りかざしての、舞踊
型の捕り方、成程揃つた總力戦時
体熱ではある。無錫監監督三好公羽
と、ハチ手八の宮野支配人と、奈落から
のカ持、流石ドロ、大皮も陰にひ
いて申し分無し。親狐の皮を張つた
初音の鼓、まはたくわえキラキラと

流し目の忠信、いよく千ヨシと本が入つて引
き幕。引込女華道の上手に据つた
吉野澄子の忠信となり、緋衣さつと
引いて、白綾子に續り日生の正一位型、
狐六法が滞り無く収まる。
衣装も道具も役者も揃つていよく
廿二日夕七時賑々しく演藝會とす。
大統領權の國庫支出に及ぼす権限如
何といふの、下院共和黨議員ジョセフ
マーチが大見得を切つる。
千ヨシのリップター海邊の空中戦に
拒軸側は九十六機を失ふ。
ゴム王ゼアリスと情報部長バデーリス
が大儀の如く、4合つて居る。

小馬鹿に考へてた

日本軍の進出振り (二)

況んや我米国の裏門アライエーシヤン迄も手中に收めて、我等の度膽を振る、次オ々々に威力を發揮して来る日本軍に対し、聯合側南太平洋方面指揮官等の懐みは愈々深まる計りで無く、支那や遼洲からは早打ちの特使を立て、再三援兵救助の哀願に及んだが、尙事能くは危急を告げるのみで、支那は宋美齡並に宋子文外交部長、マックアーサー將軍はケネディ少將、遼洲はエバト外務大臣を大統領の膝下に送り、窮状を訴へに奴カめさせて居る。然し公平無私な我、大統領は、ケネディ、マックアーサー、アイゼンハワーよりの要請も満たさず、たゞて居るに、現在、搗て、加へて、支那南太平洋、布哇、アライエーシヤン、尋八方から危機嘆訴に及んで居る。そのために全部に満足を与へ補給充実する事は困難である。殊ケネディの方針に従へば、ヒトラー打倒を目標とする今日、地球を太平洋から同様の危



急を告げ、飛行機と艦船の不足の矢の催促だ。若しケネディの方針に變更を見ぬ限り、事能くは益々困難である。先に開催した過子者達の大太平洋研究會の公議報告では、我が米国の現状は、日本が我が国にリオ一の強敵である。然し日本は其の新古領區域を企図々々拡大強化を完成して、ある。之に伴ひ、遼洲の自滅は我が米国にヒリ腹背両面の危機を齎す。此南北太平洋の日本軍の侵略を輕視して来た華府の當局者達は、日本軍など何時でも蹴散らし得る、といふ小供ら、いふ居た。處が、北太平洋方面に於ける我指合官の報告にも見えて通り、キスカアツツ島の敵は、既に堅固鉄壁の飛行機を建設し終り、今日既に、マックアーサー同様の困難に直面して居る。日本は既に廿万の鬼や、南洋の間に、日本は既に廿万の精銳を遼洲北面の島々に上陸させ、俄然防衛能く執力から攻撃部隊執力に移つて来た。又、日本空軍は既に我々激減に僅かに餘喘を保つに不遇と見た。我が逆は、モースビー要塞を始め我基地に大舉手龍攻撃し、来り猛攻を開始した。これは、我が軍は、日本空軍の激戦、僅か二日間、七五七五機を撃墜して居るが、勿論、日本空軍を全滅したのも、無ければ、彼等の進撃を喰止め得たものも、無い。我々が

141 CONCERNING THE BODY

The body—the human body is the house in which we live. Literally we are living in it. Minus our body, where in the world are we? Nothing. Zero. Void. The mechanical body may be invented some day. We want, however, our own body. Not a mechanical one—for us.

The mechanical man, it seems to us, looks cold. Have no warmth. And full of screws. There are male and female screws sold in hardware stores. Even if it is entirely made of female screws, we don't want it.

And friend, the most important thing for you living in center and for us inhabitants here in desert is to take care of our health. That is to take care of our own body. Do you really taking care of your body?



「二一」人体のこと
 け家なんだ、マックその中
 に住んで生きてるんだ、身体が
 ちかつたり？ 一体全体どこに
 われはいるだらうてえんだ！ 何ん
 もない、零だ、ただこれ空虚の感
 ろのみだ、春城の身体も出来るかも知
 らないが、これは御免だ、冷たい、暖か
 くない、それは、スクリューだらけだ、モ
 物屋には、雄ネギも雌ネギもある、が
 雌ネギだけの春城も、いらない、とら
 だ、センターの君にしろ、この沙漠の
 僕にしろ、第一のことはお互にわれわ
 れの身体に先ををつけることなんだ
 君は自分自身の先を付けてるかい？」

島に敵は、既に堅固鉄壁の飛行機を建設し終り、今日既に、マックアーサー同様の困難に直面して居る。日本は既に廿万の鬼や、南洋の間に、日本は既に廿万の精銳を遼洲北面の島々に上陸させ、俄然防衛能く執力から攻撃部隊執力に移つて来た。又、日本空軍は既に我々激減に僅かに餘喘を保つに不遇と見た。我が逆は、モースビー要塞を始め我基地に大舉手龍攻撃し、来り猛攻を開始した。これは、我が軍は、日本空軍の激戦、僅か二日間、七五七五機を撃墜して居るが、勿論、日本空軍を全滅したのも、無ければ、彼等の進撃を喰止め得たものも、無い。我々が

聯合側は、補給不足が益々激しく成つた。傳へて来た。一方、今日ノックス長官は、声明して、我海軍は、昨年比し、倍の戦闘力を増強して来た。飛機の制空作能率は、月々二百に増大され、益々制空力を増進して、あると國民を鼓舞する氣付けた。加へて、今後ケネディの戦術に従つて、米国の軍需物資を向ふニ、二十に亘つて、大西の彼方へ輸送する事、現在の、軍需物資に鑑み、果して有効であり、且、打倒ヒトラー後は、太平洋の征服、實現可能ありや否や、今既に太平洋の危機緊迫してゐるに拘はらうが、(ハルトボスト抄録)

○社説 在ホストンの中野嘉吉氏より、故竹原芳太郎氏花井儀に対し、当所各位より寄せられた同情に対し、第三大隊知事高先親心甚篤なる社説が昨日到着。

○感謝 二過般、十二中隊川原清太郎氏を訪問された全友人は、当所訪問中各方面より與へられた厚意を謝し、尚當キヤブの室波を、当所関係のホストン家族に知る事が出来た喜喜を述べた社説を、第三大隊知事高先宛送つた。

○佛教講座 (ノット持参) 今、二十日(火)午後七時、半より才十二中隊食會堂 升岡隆英師 正信偈才十八講 龍耳と云ふやとたりぬれに、櫻の春香咲く花を夢にだに見えず、流人ぬれ